



行政書士 MAP

福岡県行政書士会

広報部発行

第 24 回：会と地域とともに 55 年歩んだ行政書士

行政書士は扱う業務が幅広い仕事。そのため一人ひとりの得意分野や仕事の流儀、人生の背景も実に多様です。「行政書士 MAP」では、福岡県行政書士会の会員の中から、話題の行政書士や様々な活動を行う行政書士を紹介していきます。

第 24 回は、久留米市で農地転用、開発許可、相続・遺言業務などを中心に半世紀以上にわたりご活躍され、今年の福岡県行政書士会定時総会で満 55 年会員として表彰されました『有馬良信行政書士事務所 有馬 良信会員』にお話を伺いました。



広報部(以下、「広」): 本日は取材に応じいただきありがとうございます。まずは、所属支部、登録年次、取扱業務を教えてくださいませんか。

有馬会員(以下、「有」): くるめ支部所属で、登録は昭和 45 年 12 月 26 日です。当時 24 歳でした。主な業務は農地転用や開発許可といった許認可業務で、相続手続きや遺言書作成も行っています。長く久留米を拠点に、農地・土地にまつわる手続きを中心に携わってきました。



広: 今年の総会で 55 年表彰の対象とのことですが、登録からこれまでを振り返っていかがですか。率直なお気持ちをお聞かせください。

有: あっという間の 55 年でしたね。私が登録した頃のくるめ支部は、ちょうど会員の高齢化が進み、役の成り手も不足していた時期でした。私も登録の 2 年後に

は、くるめ支部の役員として会計を任されることになったんです。それからは会計に始まり、総務、副支部長、支部長と、気がつけばずっと何かしらの役職を担ってきました。結果的に、それが私の行政書士人生そのものになりました。

広: 開業のきっかけについても教えていただけますか。当時、どのような経緯で行政書士の道に進まれたのでしょうか。

有: もともとは大学を卒業して、一般企業に就職をするつもりでいました。ところが、またま土地家屋調査士の先生と知り合う機会があり、その事務所に入ることになったんです。当時の私はまだ土業の資格を持っていませんでした。正直なところ、行政書士の試験は当時、福岡県知事による試験で合格率も高く、比較的取りやすかったですね。「資格を持っていれば仕事になるかな」という気持ちで受けて、合格してすぐに登録をしました。行政書士業務は所長から任せただけの環境にありましたから、土地家屋調査士の補助の仕事をしながら、行政書士の依頼が来れば対応する。今でいうダブルワークのような形で、自然と実務に入っていました。

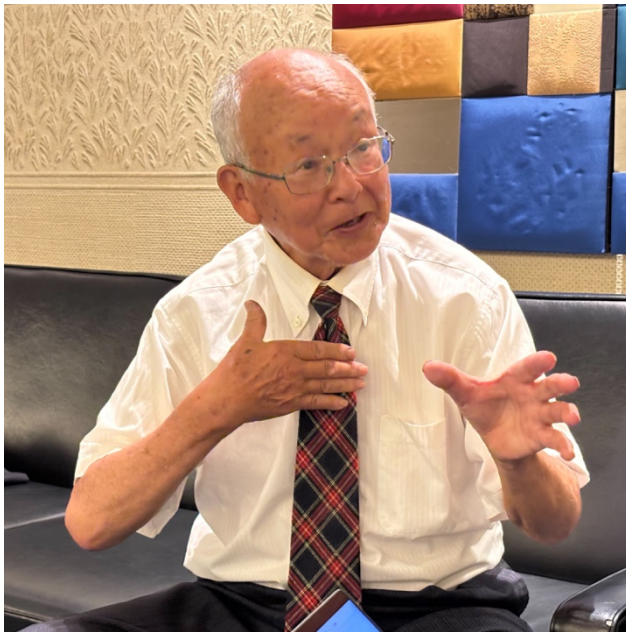
広: 開業当初の事務所はどのような様子でしたか。最初の頃のお仕事はどのようなものが中心だったのでしょうか。

有: 登録してほどなく、都市計画法が改正され、久留米市でも市街化区域と市街化調整区域を分ける「線引き」が予定されていました。市街化調整区域となる予定の土地には、すでに多くの建物の建築計画がありました。「線引き」の前にそうした方々の既存の権利を届け出ておけば、市街化調整区域であっても一定期間は建築が可能になるという仕組みがあったんです。久留米市内だけでも対象となる土地が大量にありました。先輩会員だけでは手が回らないということで、新人の私のところにもお話が来ました。そのおかげで、開業直後でありながら仕事をたくさんいただくことができました。そうして、都市計画法、農地法といった土地まわりの手続きが、そのまま私の主要業務の流れになっていきました。



広: 実務はどのように身につけられたのですか。当時は研修制度も今ほど整っていませんでした。

有: 基本的には独学です。行政書士の仕事は、法的な面を自分で調べて身につけていくしかありません。また、役所の担当の方は、だいたい3~4年で異動されますから、必ずしもその分野に長く詳しいわけではないケースも多かったんですよね。むしろ「行政書士が来庁した」となると、役所の担当の方のほうから申請内容の詳細について相談してもらえることもありました。それでも、実際にご依頼を受けてお客様に会ってさまざまな調査を試みないと分からないことは多いものです。だからこそ、会員の仲間をつくって一緒に勉強できたことが大きかったですね。人と人のつながりの強さに、ずいぶん助けられてきました。



広: 当時、久留米を中心に福岡県内各地で農地開発を扱う行政書士は多かったのでしょうか。

有: 久留米を含む筑後地域は農地が広く、農地法や開発許可に関わる依頼が多い土地柄でした。ところが当時、こうした農地・開発業務を扱う会員は県内全体ではあまり多くなかったです。久留米にはある程度の人数がいたので私自身が講師となって、福岡県内の4地区で農地・開発関係の講習を行うということもしましたね。自分の経験を余すこと

なくお伝えして、新しく入った会員でも対応できるよう仕組みを整えました。今のような県会の研修制度が整う前のことでしたから、その講習を通じて各地区の方々と関わることができたのも、今思えば大きな財産でした。

広: 長いキャリアの中で、今でも記憶に残っているご依頼を一つ教えていただけますか。

有: 一番大きかったのは、バイパスの建設に関わる仕事です。久留米から筑紫野方面を結ぶ大きなバイパスで、県道の拡幅部分の用地に関わるお仕事でした。十数名の地権者の方がおられ、相続や調停の絡む権利関係も多く、なかなかスムーズにはお話が進みませんでした。一つひとつ事情の違う方々と向き合いながら、時間をかけて行政の手続きを取りまとめたいったこの仕事は、今でもよく覚えています。



広: 逆に、55 年間で変わらなかったこと、変えてこなかったことはありますか。

有: 人と人のご縁、関わりというのを大切にすること。これは一貫して変えずに大切にしてきたことです。お仕事でもプライベートでも、思い通りにならないことはあります。それでも、いろいろな形で関わる皆様とは、日頃から長くお付き合いを続けていく。一番苦しいときに関わってくれた方こそ大切にすること。そういう向き合い方だけは、55 年変えずにきました。人と人とのつながりは、一朝一夕にはできませんからね。

広: 福岡県行政書士会の会長も務められたと伺っています。

有: そうですね。会長時代には、(福岡県行政書士会)会費の値上げという、会員の負担に関わる難しい判断にも向き合いました。当時の福岡県行政書士会の会費は、全国的に見ても低いほうだったと思います。会員が 900 名ほどいた時代でしたが、会務などのお仕事は自費で動くことも多かったんです。負担を増やしていただくときには、取ってつけたような理由はいりません。ありのままを訴えて、理解していただくしかない。これはどなたが会長や役員になっても、避けては通れないことです。会員も市民も、たくさんの方がいれば思いもさまざまですから、だからこそこれから役を担う方には、正面から誠実に訴える覚悟を持っていただきたいと思っています。

広: 会務以外でも、地域の公職なども長く務められているそうですね。

有: 久留米市の固定資産評価審査会の委員長を務めています。3 年で 1 期、現在 6 期目になります。こういった経験のおかげで歴代の市長とも、ずっとご縁が続いています。くるめ支部の総会には、市長が他の会合を途中で抜けてでも駆けつけてくださることがあるんですよ。冗談まじりに「来ないと有馬先生が怖いから(笑)」なんて挨拶でおっしゃる。そういう関係を、今の支部長たちも引き継いでくれているはずですよ。

また、地域の協議会にも積極的に参加し、ある団体の副会長として 10 年ほど関わってきました。行政書士の仕事は、事務所が安定すればそれで十分というものではありません。「どこまでやれば安定」という明確な線はないんです。地域や行政との関わりを持ち続けることで、ご相談に来られた方からの信頼度がまるで違ってきます。「地域の活動も頑張っているんですよ」と、安心して話をしてくれるのです。ですから、いろいろな会の役にも、背伸びをしない範囲で積極的に取り組んでいくほうがいい。それは必ず自分に返ってきます。

広: 有馬先生が所属するくるめ支部は、研修にも特徴があると伺いました。

有: はい、農地・開発関係など、実務に直結した講習を支部で続けてきました。他の支部にはない内容もあるので、他の支部から参加したいという声をいただくこともあります。他支部の方がくるめ支部の講習に集まり、地元の会員が来る頃には席が足りなくなるほどでした(笑)。



誰かに指示されたわけではなく、皆さんが「必要だ」と思って集まってくれる。そういう伝統が、くろめ支部には色濃く残っているのかなと思います。

広:これから開業しようという若い行政書士、あるいは今まさに頑張っている会員に、55年のキャリアから一言いただけますか。

有:行政書士として入会した以上は、まず支部や会の会合にしっかり顔を出してほしいですね。総会や支部の様子など、足を運ばないと雰囲気は分かりません。そして参加して、疑問に思ったことは遠慮なく質問する。今の試験はとても難しくなっていますから、知識は皆さんしっかり持っておられるはずです。あとは足を運んで、人とのつながりの中で前に進めていく。これをぜひ大切にしてほしいですね。

広:先生ご自身、これからやってみたいこと、続けていきたいことはありますか。

有:これまでは業務などに一生懸命で、もしかしたら家庭は少しおろそかにしてきたかもしれません(笑)。以前は夫婦で年に何度も旅行に行っていたのですが、最近はなかなかできていなくて。家内には本当に感謝しています。これからも元氣なうちは、家内と一緒に旅行も楽しみたい。何事も、ゆとりを持って取り組んでいきたいと思っています。

広:本日は、お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。



～行政書士プロフィール～

有馬 良信(ありま よしのぶ)

登録年月日:昭和45年12月26日

事務所所在地:久留米市旭町51番地2

この記事は令和8年7月1日の情報です